

アジサイアジサイ（紫陽花）アジサイ科アジサイ属

アジサイは大きく分けてガクアジサイとセイヨウアジサイに分けられる。セイヨウアジサイも元はと言えば日本のガクアジサイが品種改良されたものです。**なぜ？アジサイ（紫陽花）と言う名が**付いたか、「あずさ」と言う言葉が変化してきた、「あずさ」と言う言葉を詳しく見ると「あず」と「さ」と言う単語に分解できる、「あず」とは小さいものが集まっている様子を表す言葉、「さ」は藍色の花や真藍（さあい）を表します、つまり「アジサイ」と言う言葉には2つの単語が隠れており、藍色の小さな花が集まって咲いている様子を見事に表した名前です。日本には、もともと紫陽花は藍色のガクアジサイだったので青い小さい花が集まっているのが当時の人たちの紫陽花のイメージでしたのでその様な名前になった。又、漢字の紫陽花の字は後から当てはめられた。**アジサイ全体の花言葉**＝移り気・家族団欒等々
色の違いによる花言葉＝青紫色＝冷淡・無情・高慢 *赤紫色＝元気な女性 *白色＝寛容 *ガクアジサイ＝謙虚
・アジサイノの種類は次々と品種改良がなされて、今では世界で2,000～3,000種類あると言われています。



ガクアジサイ



セイヨウアジサイ

アサザ（浅沙・阿佐佐）ミツガシワ科アサザ属 *花期＝5～9月

別名ハナジュンサイとも呼ばれており葉の形が似ている、若葉はお浸しなどで食べられる、平安時代から知られている浅い水辺に生息している多年草、アサザ**名前の由来**＝水辺の浅い場所に生息して花を咲かせているので「浅咲」から「朝沙」となった説、アサザの花が朝咲くので「朝咲・アサザ」から「浅沙」になった説等ある。アサザは絶滅して植物に指定されている。本来、池や湖沼、水路などの浅い所に生息し花を咲かせているが、水質の悪化や水路のコンクリート化のため生息する環境が無くなってきた。日本の最大の自生地は霞ヶ浦、原産は日本。中国・インド・北アメリカ。***花言葉**＝平静・信頼・しとやかさ



ミゾカクシ（溝隠）キキョウ科ミゾカクシ属 *花期＝6～10月

日本全土の田の畦や湿り気の有る所に生える多年草、高さは10～15cm位で匍匐して細い茎を延ばし節から根を出して増える。葉は長さ1～2cm、巾2～4mm披針形でまばらに互生、葉腋から長い花柄を伸ばし1個花を付ける、花弁は5枚で片方に寄っているので半分無くなったように見える。**名前の由来**＝溝を隠すほど繁茂するので、別名＝アゼムシロ（畦筵）田圃の畦に筵を敷いたように生えているところから、ミゾカクシは全草に強い毒性のアルカロイドのロベルを含んでおり、誤食すると、嘔吐、下痢、呼吸困難、どうき息切れなどで最悪死に至る。***花言葉**＝思わせ振り・意表を突く人



ノリウツギ（糊空木）アジサイ科アジサイ属 *花期＝7～9月

高さ5m位になる落葉小高木、樹皮の内皮に糊液を含んでいるので和紙を漉く際の糊料としていた、皮をはいだ後の木は、雪の上を歩くカンジキ、杖、木釘、等に利用されていた、根はパイプがつくられている、葉は対生で鋸歯がある、枝先に8～30cmの円錐状の散房花序を出す、周辺の4弁の白い花は装飾花で中央の小さい白い花が5弁の両性花を多数つける、装飾花は種子が出来る頃に淡い紅色～淡い緑色に変化する。原産地は日本、中国、**名前の由来**＝和紙を漉く際に糊として使うのでウツギとあるがウツギは髓が空洞だがノリウツギは髓があるが柔らかいのでウツギとなった故に煙草のハパイプが作られる。***花言葉**＝臨機応変



ノグルミ（野胡桃）クルミ科ノグルミ属 *花期＝6月

高さ5～10m高いものは30mになるものもある、樹皮は灰色、縦に浅く裂ける、葉は互生で奇数羽状複葉、細かい鋸歯がある。果実を上向きに付けるのは本種のみ、**名前の由来**＝葉や樹形がクルミに似ていて山野に見られるので。**ドクグルミ**と言う別名もある、葉や樹皮を叩いて魚毒として川に流し浮いた魚を獲って食べていたので、タンニンを多く含んでいるので皮のなめしにも利用。染料も

